

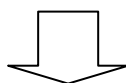
ヒアリング対象課題の選定の考え方

【前提条件】

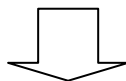
- 46件（ソフト27件、ハード19件）の応募
- ヒアリング対象件数（＝一次審査による絞り込み件数）（想定）
 - ・ 採択予定件数（5件程度）の2倍（10件）程度を目標（ソフト・ハードそれぞれ5件程度）

【一次審査】

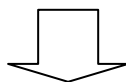
- 行政担当官及び研究担当官による評価
 - ・ 5段階で評価（最高点100点、最低点20点）
 - ・ それぞれ評価できる点、課題等を記入



- ヒアリング対象としない課題について、以下の観点から整理
 - 【創造性】 研究手法等の新規性が低い 等
 - 【実現性】 成果が明確でない、手順が明確でない、行政ニーズが高くない 等
 - 【実施体制】 体制が適切でない、費用が適切でない 等



- ソフト9件・ハード5件をヒアリング対象課題（案）として選定

【ヒアリング審査】

- ヒアリング審査を踏まえ、ソフト3件（本採択3件）、ハード2件（本採択1件・FS採択1件）を二次審査上程案件として選定